

わたしたちが運ぶのは未来です

運輸省



みなと しみず

発行所

第五港湾建設局

清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号

TEL 清水(0543)52-4146(代)



▲中村所長

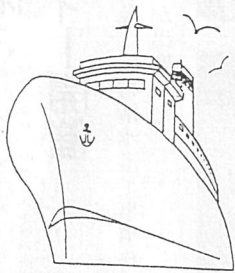
清水港工事事務所は、大正十年内務省横浜土木出張所清水港修築事務所として設置されて以来、清水港の整備にあたってきました。
現在では、重要港湾御前崎港や避難港下田港についても現地に工場を設置し整備を行ってきています。しかしながら、一般の方々からあまりよく知られていない状況にあると思います。

発刊にあたって

所長 中村 豊

昨年五月に、私達がこれまで臨海部で開発を行ってきた経験を生かして「ウォーターフロント開発相談窓口」を清水港工事事務所に開設しました。これから私達は、事務所を引きこもっているのではなく、積極的に地元との交流を大いに図り、より優れたウォーターフロントづくりを行い、また、お手伝いをしていきたいと思っております。

「みなとしみず」は、こうした観点から皆様と清水港工事事務所との交流を一層深めていくことに願いを込めてこのたび発刊いたしました。末長くかわいがっていただければ幸いです。



ウォーターフロント開発 相談窓口オープン1周年

運輸省のウォーターフロント開発相談窓口は昨年の5月1日に全国一斉にプレス発表をするなどして直轄の工事事務所・各地方港湾建設局・本省港湾局に設置されて満一年になりました。

この相談窓口は、日本に本開発のための制度を用意するとともに、民間の資金とノウハウを活用する民間活力の導入という、あらたな方式を取り入れることとした。

また、民間活力の導入等によるリゾート開発にNITの株式売却益をもとにした無利子の資金の貸付・民間都市開発推進機構による低利の資金の貸付・事業への参加・インセンティブ補助(事業実施のための準備資金の補助)等の支援策が取られることとなった。

以上のように、海辺のリゾート開発(ウォーターフロント開発)の推進と、これらの制度・支援策についての説明・宣伝をするためにウォーターフロント開発相談窓口が開設されたものであり、当清水港工事事務所の相談窓口にもこの一年間に18件の相談が持ち込まれた。内訳は民間からのものが12件、地方行政機関等6件となっております。

格的な余暇時代がやってくることを想定して海辺のリゾート開発を港湾局として積極的に推進していかうとするものであります。

この海辺のリゾート開発のためにマリスタウンプロジェクト・コースタルリゾート等、埋め立て申請・国定公園内の事業の進め方・国と港湾管理者の関係・事業の相談先および申請先等)が多く、いままでの行政のありかたに反省をさせられる面もありますが、

民間の方や市町村の方に港について関心を持っていただけたことに、ウォーターフロント開発相談窓口の活動の意義があったと思う。

特に地先に港を持っていないがら港のことは港湾の管理者である県にまかせきりであったという市町村が、港が市町村の発展のためにいかにあるべきかを考える非常に良い機会であり、地域住民に港について議論していただけたことに、さらに大きな意義があると思います。

当清水港工事事務所のウォーターフロント開発相談窓口は、元年度よりさらに担当職員を増強して、出前サービスを含め質の高いウォーターフロント開発の発掘と多方面の方々に港に理解を得るようにはたらきかけてまいりたいと考えています。

ウォーターフロント 相談窓口(所在地)

清水港…清水港工事事務所
清水市日の出町7番2号
TEL(0543)52-4146代
御前崎港…御前崎工場
様原郡御前崎町御前崎6170
TEL(0548)63-4840
下田港…下田工場
下田市三丁目18番25号
TEL(05582)3-1208

伊東マリンタウン(株) 創立披露パーティー開催

かねてより設立の準備を進めてきた伊東マリンタウン(株)(伊東市湯川、但馬惟達代表取締役社長・出資団体伊東市・日本信販(株)外10社)がこのほど創立され、四月二十六日伊東市川奈ホテルにおいて披露パーティーが開催された。同社は、昭和六十二〜六十三年度、運輸省・静岡県・伊東市の三者協同調査により伊東白石港マリンタウンプロジェクトを実施するために設立された第三セクターである。

当日、本省から本港湾局技術課長、五建からは足立技術



▲挨拶される本港湾局技術課長

予算獲得運動 について

平成三年度予算については、シーリングが久々に撤廃されましたが、港湾管理者・地元市町村・港湾利用者・港湾整備にかかわる者が一致団結して静岡県のシェアアップを働きかける必要があります。六月二十日の港湾整備促進大会には多数出席下さい。

紹介

新しい なかま



次長

杉森邦夫

「3」に縁が深いといつか、清水港へ入所したのが昭和33年、それから33年目にして、当事務所3度目の勤めとなりました。当時の無我夢中で過ぎた時代から、精神的な発展は全くみられず、年令ばかり重ねて今日に至ったことを今更ながら、慙愧の思いで振り返っています。幸いというか、他人から見れば、憎らしいことに身体だけは丈夫にできていたので、これを資本に少しでも役に立てればと思っています。よろしくお願いします。

庶務課庶務係長

長尾宗夫

この四月に四日市港工事事務所より清水港工事事務所の庶務係に来ました。当地清水港は十九年の公務員生活のなかで、始めての勤務であり不安もありましたが、よい諸先輩にめぐまれ仕事にも私生活にも早くなれそうです。

工務課長

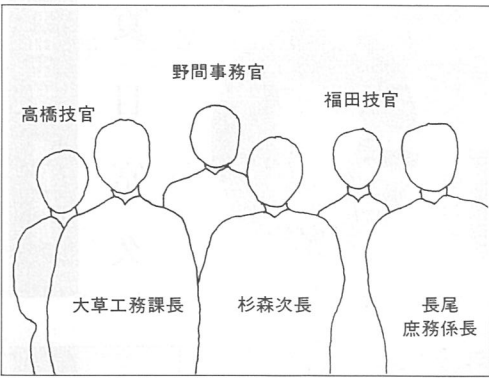
大草光男

今年、午年であり私は、社会に出てから3度目の年男



庶務課運輸事務官

野間 一伸



清水港は自分にとつて5カ所目の勤務地になります。清水の街、そして事務所の雰囲気は、前にいた宮崎、長崎に似ているようで満足しています。しかし、清水港に着任して困っていることが一つだけあります。それは、食べ物が美味しいためちよつと体重が増えたことです。(もともと太かったから目立たないという声も若干ありますが……)とにかくこれからは、清水港の一員としてがんばりますので、よろしくお願ひします。

工務課運輸技官

福田 浩司



海なしの岐阜より、この清水へやってまいりました。一日も早く、土地に慣れ、仕事に慣れ、一人前の社会人となるようガンバリますので宜しくお願ひ致します。

工務課運輸技官

高橋 裕司

みなさんにはいろいろと御迷わくをかけると思いますが、一生懸命がんばりますので、よろしくお願ひします。

第一工事課長

池田 辰男



清水港工務課事務所には初めての勤務となります。日々、富士山が眺められることを楽しみにやっています。現場担当の一人として、安全第一を徹底していきたいと考えております。

第二工事課工事係長

山本 潔



出身地／静岡県藤枝市
趣味／魚釣り

沖縄・平良港から転勤になりました。
清水港勤務は14年ぶりです、今後ともよろしくお願ひします。

第一工事課運輸技官

増田 克美



この度、監督測量船「まさき」の運航に携わっていくことになり、一生懸命がんばります。又、皆さんの公私にわたる御指導の程よろしくお願ひします。



下田工場 事務係長

夏目 富久



大都會の雑踏名古屋から歴史とロマンの港街下田へ。ラッキー、ヤッター。釣もできるし、ゴルフもできるし、仕事も……。最高の気分です。静岡は西の端、みかんでお馴染みのニヶ口出身。妻と一男一女の父です。

下田工場 運輸技官

江崎 竜夫



なんて幸せなんだろう。新鮮な海の幸に恵まれ、広大な海原を毎日航海できるなんて……。でも私は、魚がきらい。でも私は、船に弱い……。あ、いい、誰か私をたすけてくれろ。

海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰細則について

第五港湾建設局では、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動について表彰する制度を設けました。表彰は、港湾管理者又は海事関係団体の推薦により毎年七月に行います。詳細については当所庶務課までお問い合わせ下さい。

清水港の動き

2年	清水新港湾資料館建設工事地鎮祭(清水)	5・18	日本港湾建設協会静岡県支部、全日本漁港建設協会静岡県支部平成2年度通常総会(静岡)	6・1	運輸省設置記念日(永年勤続職員表彰、30年勤続被表彰者、技官池田辰男、技官宮下俊明)
4・4	伊東マリントウン(株)創立披露パーティー(伊東)	5・22	清水港利用促進協会平成2年度通常総会(清水)	6・18	平成2年度第1回通常検査
4・26	次期五カ年及び平成3年度予算要求説明会(名古屋)	5・20	港湾関係新五カ年計画策定推進総決起大会(東京)	6・20	港湾関係新五カ年計画策定推進総決起大会(東京)
5・11	港湾関係新五カ年要 求決起大会(名古屋)	7・20	海の記念日		
5・14	第51回下田黒船祭(下田)				

編集後記



平成2年度もスタートして早五半月、職員の皆様には、新しい業務等も軌道に乗り、毎日元気いっぱい取り組んでおられることと思います。

今、清水港工事事務所をめぐる話題は、八次五カ年と港湾計画の改訂の時期を迎え多種多様なものがあり、中でも「二十一世紀への港湾」へ向って豊かなウォーターフロントの整備がクローズアップされて来ましたが、それに伴い私達の仕事も多様化し、ますます範囲も広がっており、業務内容等を内外に広くPRする広報誌の役割は重要だと考えております。

刊号を発行しました。寄稿を始め、表題の「みなとしみず」の決定にあたり職員の皆様から多くの意見等を出していただきありがとうございます。今後の発行予定については、原則として年六回を目標としています。なるべく構えず、堅くならず、親しみやすい紙面になるよう心がけて頑張りますのでよろしくお願ひします。皆様の気軽な投稿をお待ちしております。

編集委員会

